

べき限りではないが、たゞ一つ注意して置かねばならぬことは彼等の據つた土地と其土地に於ける一般の自然現象との概略である、一體これらのことはその地の民族の精神を支配するにすこぶる勢力あるものであつて、従つて其風俗習慣等の、根據を茲に有すること決して少からぬのである、文明史を書く人々がとくに之等の點に注意して居るのは誠に妥當のことであつて、有名なるバックルの英國文明史を見ても如何にこれらのことに意を用ゐて居るかわかる、

彼等の本據地は、今のツラ河オノン河ケルレン河等の發源する地所ブルカン山の地であると云はれて居る、有名なるバイカル湖の南方一帶の地は即ちこれである、經緯度の上からいふと東經約百十度、北緯約四十八度位を中心とした地方であつて、ゴビの沙漠の北方に位して居る、バルラスがその地方のことをかいたものを見ると氣候は土地の高燥なるが爲めに同緯度にあたる歐羅巴の地よりはるかに峻烈であつて、バイカルの水は常に四五ヶ月の間氷結し氷點以下二十四五度の寒さに達することは珍らしくないといふて居る、一二四五年歐羅巴から蒙古に來たプラノカルピニヤ、一二五三年に同じく歐洲から茲に來たルブルキー等の記て居る處を合せて見ると、十二月頃から五月頃迄は氷がとけない、五月になつても時に非常な寒氣が襲來して爲に人畜の死することもたび／＼であるのみならず、又晝間の外は霜の降るのが常である、そして暑い頃には雷鳴頻りに起つて屢々大害を與へたりまた俄かに雪がふつたりすることがあると云ふ様なことを繰り返し／＼かいて居る、要するに寒季長く且つ強く、天候は激變が多くて災厄屢々來り、従つて生物の生息には少からぬ不便を感じるのである、土地の性質としては全く農業が行はれぬといふのではない、後に支那人が此地方に移住して野菜を栽培したり、穀物を作つたりして居たことも見える